

# 地域の教育力の活用と 学校と地域の連携

— 横浜市立倉田小学校 —

## 学校・施設概要

所在地：神奈川県横浜市戸塚区上倉田  
 創立：昭和63年  
 児童数：484名  
 学級数：16(平成14年5月現在)

## 地域・コミュニティの特性

- 横浜市郊外にある、郊外型住宅市街地。近年、集合住宅の建設が進んでいる。
- 起伏の多い地形には、農地や里山など豊かな自然が多く残っている。学校は斜面地の中腹にある。
- 従来からのコミュニティが保たれており、新旧住民とも教育活動に熱心である。

## 事例の特徴

- 学習の場を地域にも広げ、学校と地域の日常的な接点が確保されている。
- 学校に地域住民が常に関わり、地域文化を伝えながら子どもたちを見守っている。

### 休耕田の活用による 地域での自然体験学習の場

学校は、自然体験を教育目標に掲げ、地域の休耕田を農業体験に活用している。住民から稲作のノウハウが伝授され、また、収穫祭などのイベントの開催により、住民との交流を楽しみながら学習している。



休耕田を活用した農業体験学習



倉田のさとふれあい館での下倉田お囃子連の上演



倉田のさとふれあい館での学習発表「倉田の祭り」秋まつり

### 「倉田のさとふれあい館」による 地域住民との交流

余裕教室を利用し、地域施設として「倉田のさとふれあい館」が平成13年度に完成した。地域の人々の学校への運営協力や利用などが盛んになった。それにより、常に地域の人々のいる学校となったことにより、多くの人の目によって学校の安全が支えられている。

## 地域に開かれた安全・安心な学校づくりの創意・工夫

起す

### 地域住民に自然や福祉に関する体験学習の実施について校長が相談した

- 自然や福祉に関する体験学習の実施について、校長が地元の町会や大学に相談し、協力を呼びかけた。
- 休耕田や余裕教室など、学校や地域にある「ゆとり」を活用した。

### 校長が地域の行事や会合に出席し、相談できる人を増やした

- 校長が地域の行事や会合に積極的に参加して、地域と学校のことについてお互いが理解し合うようにし、学校の活動について相談や協力をしてもらえる人を増やした。
- 学校に住民の居場所をつくり、子どもたちや教職員と地域の人に顔見知りの輪を広げた。

広げる・つなげる

### 地域の自然や文化を学ぶ場を学校と地域で一緒に楽しめるようにした

- 休耕田での農業体験学習や収穫祭の開催、「倉田のさとふれあい館」で行われる郷土芸能鑑賞、地域住民から寄贈された郷土資料の展示など、学習活動を子どもたちと地域住民がともに楽しんで学べるようにした。
- 「倉田のさとふれあい館」に伝統的な民家のデザインを取り入れ、地域の生活文化を伝えるとともに、子どもから高齢者までが親しみやすい場をつくった。
- 農業体験学習を行っている学校田を住民も見守っている。

### 学校と地域の両方が得をする活動にした

- 休耕田を地域住民と子どもたちがふれあいながら学習する学校田として活用することにより、農地として再生させた。

続ける

### 地域住民が学校運営への協力を続けられる仕組みをつくった

- 学校開放のための指導員、「倉田のさとふれあい館」を放課後等の児童の遊び場として運営するための指導員として、地域住民が学校と関われるように市の制度を導入した。

## 安全・安心のための工夫

- 校長や教職員が地域の人との関係を日頃から深め、安全に関する情報収集や地域の人材の発掘等に取り組んでいる。
- 学校に地域の子どもの居場所を確保することにより、地域の子どもの目で子どもたちを見守るようにしている。
- 地域の知り合いを増やすことで、子どもたちが見知らぬ人に対して注意を払うことができるようにしている。
- 学校外での子どもたちの学習活動の場（休耕田）を、地域住民も一緒に見守っている。